

妙安寺だより

テレフォン法話 092(751)6084

御会式(おえしき)

日蓮聖人は、1282年(弘安5年)10月13日に、現在の東京都大田区池上の地で入滅されました。

この日を中心に、全国各地の日蓮宗の寺院では、日蓮聖人への御報恩のための法要や行事が営まれます。ことに入滅の地・池上本門寺のお会式の万灯行列は盛大で、12日のお逮夜には、全国各地から数十万人の参詣者でにぎわいます。

このお会式の行事が、他宗の祖師の命日の行事に比べても特に盛大なのは、二つの大きな理由があります。

一つは、日蓮聖人の存在そのものが私たちの救いになっていることです。日蓮聖人は、妙法蓮華經の五字によって人々が救われ、仏となることを我が身を以って示されたことです。

二つ目は、ご臨終の素晴らしさにあります。日蓮聖人は生涯の終わりに臨んで、「立正安国論」を講義し、お弟子たちに遺言され、人々の唱題の中で入滅されたのです。

臨終の時の心と姿を大事に考えられ、また臨終を重視されたことは、臨終の姿にその人の一生の行いが表れると見られたことです。

この臨終の大事なことを、日蓮聖人入滅後の一門の人々が継承し、日蓮聖人のご命日を、まるで祝うかのように喜び、

また、その年に刈り入れたお米や野菜、季節の果物、赤飯、紅白の餅などをお供えして、そのご恩に感謝するのです。

宗祖御報恩 お会式法要の案内

10月26日(日) 正 午 お 齋 (おとき)

午後 1 時

宗祖御報恩 お 会 式 法 要

午後 2 時

法 話

講師 長崎県雲仙市 日誠寺住職

森 下 龍 浄 上人

*お齋(おとき)とは、法会、法要のときの僧の食事のこと。

国字=日本で作られた漢字

和製英語があるように、日本で作られた独自の漢字もあります。

「国字」といって、字と字を合成して作られ、字形自体が、そのまま意味を表しているものがほとんどです。

例えば、山の上下の境にあるので「峠(とうげ)」、道が十字に交わる場所なので「辻(つじ)」、身のふるまいを美しくするので「躰(しつけ)」、風が止んで海上が静まるので「凪(なぎ)」、山から吹き降ろす風から「嵐(あらし)」と、このように、意味が分かりやすく作られています。

それでは、「榊」は、何と読む字でしょうか？

「榊(さかき)」が神にお供えする木であるのに対して、「榊」は佛(仏)にお供えする木、つまり「しきみ=檜」という国字です。

その後の住職の状態

9月の診察により、腰椎に頸椎と同じ症状があり、11月12日に整形外科に入院、同18日に手術を受けることになり、年内の復帰が不可能となります。

現在は、退院後に福岡組の副長を辞任し、また10月の身延山総登詣の旅行も取り止めて、治療に専念することにしました。お寺での法要などの寺務を、副住職に任せますのでご了承下さい。

